北海道医師会役員

退任のご挨拶

常任理事退任のご挨拶

前常任理事

三戸 和昭（みと かずあき）

令和７年６月14日開催された第169北海道医師会定時代議員会で北海道医師会常任理事を退任いたしましたので、一言ご挨拶させていただきます。平成15年より北海道医師会常任理事に就任して以来11期、22年間務めました。主な担当部は地域保健部ですが、総務部と財務部も担当いたしました。そのため、日本医師会の委員会は学校保健委員会に約10数年参加し、北海道の児童生徒の状況を報告して、日本医師会会長諮問に対して意見交換を行い、答申の作成に関わりました。その後、母子保健検討委員会と予防接種・感染症危機管理対策委員会に参加して、意見を述べさせていただきました。北海道医師会の各委員会には、各々の地域から担当者らが集まり地域の現状を報告していただき意見交換を行い、北海道の医療計画の参考にさせていただきました。

当会在任中に２回のパンデミックがありました。１回目は新型インフルエンザウイルス感染症で、メキシコから始まった肺炎を起こすインフルエンザが日本に上陸して、北海道にも拡がり外来対応や入院施設の確保等の感染対策を取りました。２回目は新型コロナウイルス感染症の流行が世界中で広がりましたが、北海道においては全ての医療関係者の協力により終息しつつあります。また、北海道において日本脳炎の患者発生がない理由で、定期の日本脳炎予防接種を北海道のみ地域指定から外され、希望者は有料で受けておりました。当時の長瀬清会長を始め医師会役員、事務局職員等多くの人の協力により北海道も日本脳炎予防接種が定期接種になり、道民より感謝の言葉を頂きました。これもひとえに皆様方のご支援並びにご助言のおかげで大過なく務めることができ、心から感謝とお礼を申し上げます。これからは一会員として地域医療に貢献してまいります。最後に北海道医師会の益々の発展と皆様方のご健勝並びにご活躍を祈念いたします。

監事退任のご挨拶

前監事

藤瀬 幸保（ふじせ ゆきやす）

北海道医師会監事となって５期10年。今では、猫背も腰折れも強くなり、肉が落ち身が薄くなって、もともとあまりない貫禄もすっかりなくなりました。

今期は腰痛から始まり、両監事、事務方にはご心配をおかけいたしました。

理事会・常任理事会に出席していて強く感じたのは、会長・副会長・常任理事は大変忙しいということです。夜間－土日・休日の仕事も多く、加えて日本医師会の会議・学会出張もあります。事務職も手配や補助加えて気配りもするわけです。仕事は重要・必要で欠かせないので、有能でないとなかなかこなせないことだと思います。

一方、日本が世界に誇る国民皆保険といっても、保険点数に反映されない働き方改革、IT更新時の何億という費用を始めとして、東京一極集中による地方の人口減や医師減に伴う病院のダウンサイジング、さらに国・公・公的・私立の地方病院の統合問題など難問が山積しています。私の現役時代には想像できなかった事柄です。

医療の現場では、安心・安全・倫理などの関係領域も拡大、複雑化し、費用がかかるようになってきました。しかし保険では点数化してくれていません。日本医師会・北海道医師会・郡市医師会もこういう面からの対策を講じてはいるのでしょうが、まだ程遠いようです。

監事の仕事も、会計監査以外の安心・安全・倫理面での仕事が広がりつつあります。今後は超高齢者の「安楽死」「無益な治療」の問題や諸種ハラスメントを含めた仕事も増えて難しくなるでしょう。

監事の梶先生・阿久津先生・松岡先生、事務方の皆さんのご健闘お祈り申し上げます。長い間ありがとうございました。

理事退任のご挨拶

前理事
鈴木敏夫（すずきとしお）

令和７年６月14日にて理事を退任いたしました。４年間大変お世話になりました。後志ブロックは、岩内古宇郡医師会、小樽市医師会、寿都医師会、余市医師会、羊蹄医師会で構成されております。後志は１市13町６村の計20市町村を有し、中核都市である小樽市から理事として参加させていただきました。

理事に就任した令和３年６月は新型コロナウイルス感染症第４波の最中で、小樽市においては同月末から集団接種が開始された時期にあたります。当市では大本晃裕先生（当時医師会副会長・現会長）を中心に保健所と相談を重ねました。先行していた余市・古平・積丹・赤井川の５町村を対象としたいわゆる余市モデルも参考にさせていただきました。電子メールの受信トレイ・送信トレイ履歴には行政との大量のやりとりが残っております。

コロナ禍でも北海道医師会ではハイブリッドによる会議が粛々と進められ、地元の会議の運営でも大変参考になりました。また連日発信された感染症情報では、各地の状況をリアルタイムで知ることができました。事務局の皆さまに大変感謝いたします。

松家会長をはじめとする三役また常任理事の皆さまからの中央情勢の報告、さらに令和５年６月から日本医師会常任理事に就任された笹本先生からの情報も、逐一地元に報告することに努めましたが、皆さまの多忙な日々を思うと頭が下がりました。

また北海道・道内各自治体あるいは厚生局など、医療福祉における行政のカウンターパートとして様々な対応を目の当たりにさせていただき、医師会の重要性をあらためて感じました。これからも医師会入会の重要性を強調したいと考えています。

後志は少子高齢化が急速に進んでいます。20年後には高齢化率50％人口減少率50％も予想されています。医療圏を超えた連携が重要になる可能性もあり今後も北海道医師会からの示唆をいただけるようにお願いいたします。

さて地元小樽では、小樽駅からまっすぐ下がったところにある小樽港第３号埠頭が令和５年４月にリニューアルされ大きなクルーズ船の発着も日常となりました。積丹半島をはじめとして後志は魅力にあふれています。どうぞ皆さまも足をお運びください。改めて理事という貴重な機会をいただいたことに感謝いたします。

議長退任のご挨拶

前議長
井門明（いどあきら）

この度、北海道医師会代議員会の議長を退任いたしました。在任中大変多くの方にご指導ご鞭撻を賜りましたことに、心から感謝を申し上げます。

私は2009年に美唄市医師会の会長に選任され、同時に北海道医師会の代議員となり、16年間代議員を務めさせていただきました。最後の６年間で、副議長と議長を拝命しました。当初五里霧中の中、役員の先生をはじめ多くの代議員の方々、事務局の皆さんに様々なご助言やご指導をいただきましたおかげで、大過なく職責を全うすることができたのではないかと考えております。代議員会におきましては、議長席から代議員の方々からの代表質問や一般質問を聞かせていただきましたが、本当によく勉強されており、的確に時宜を得た課題に関する問題提起をされており、感心させられることが多々ありましたし、学ばせていただきました。また、理事会に出席するようになってから改めて認識しましたが、役員の先生方の熱心なお仕事ぶりには目を見張るものがありました。北海道医師会の諸先生には、今後とも北海道の地域医療の発展のためにご尽力いただきますようお願いいたします。

議長としての仕事ではないのですが、代議員の16年間で最も印象に残っていることは、原中日本医師会長時代に設置された50歳未満の若手医師会員を対象とした医政活動研究会に、北海道代表２名の一人として参加させていただいたことです。何年間か東京での会議に出席し、また北海道での医政活動研究会では司会を務めさせていただきました。この活動の中で、菅義偉内閣官房長官（当時）、小泉進次郎衆議院議員、田村憲久元厚生労働大臣（当時）、そして自見はなこ参議院議員など多くの政治家のご講演を拝聴することができ、桜井充参議院議員とは午前1時半まで居酒屋で深酒をしつつお話を聞かせていただきました。このような経験を通して、日本の素晴らしい医療を守るためにも、政治がいかに重要であるかということを強く認識しました。これからできる範囲で、若い医師会員に医政活動の重要性を伝えることが、北海道医師会への幾許かのご恩返しになるのではと考えています。

今後の北海道医師会のますますのご発展を心より祈念申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。